

周産期母子医療センター

(母体胎児部門)

1. スタッフ (2023年12月現在)

周産期母子医療センター (産科部門：母体胎児集中治療部、分娩部)

＜周産期科所属母体胎児部門医師＞

部門長 (教授) (兼) 桑田 知之
(産婦人科科長)

産科4B病棟医長 (講師) 牛嶋 順子

医員 (教授) 今野 良
(准教授) 堀内 功

近澤 研郎

(講師) 今井 賢

(助教) 一井 直樹

石黒 彩

シニアレジデント 9名

シニアレジデント (他院出向) 7名

非常勤医員 1名

2. 診療科の特徴

認定施設

日本産科婦人科学会 専攻医指導施設

日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

日本周産期・新生児医学会専門医制度
母体胎児認定施設

日本超音波医学会 専門医研修施設

日本婦人科腫瘍学会 専門医制度 指定
修練施設

認定医

日本産科婦人科学会専門医

桑田知之 今野良 牛嶋順子 近澤研
郎 今井賢 一井直樹 三澤将大 石
黒彩 柴田あずさ 黄弘吉 横田美帆
堀内功

日本周産期・新生児医学会母体胎児専門医

桑田知之 牛嶋順子

日本超音波医学会専門医 桑田知之

日本生殖医学会専門医 堀内功

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医

今野良 近澤研郎

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医

今井賢 近澤研郎

当センター周産期部門の診療開始は2008年10月ですが、開設当初は母体救急の搬送例対応主体の診療でした。2009年後半より妊娠全期間に対する継続した周産期管理が開始され、その後、2010年5月からは新生児病棟も新設され、同年7月に地域周産期母子医療センターに指定されております。

2011年10月から埼玉県之母体・新生児搬送コーディネーターシステムが稼働開始となり、当院は埼玉県東部と北部の広範囲領域をカバーする同システムの地域周産期母子医療センターとして活動しております。

2013年2月から高木健次郎教授が赴任、2016年より自治医科大学附属病院より桑田教授が就任されました。桑田教授は周産期領域全般に渡り指導的立場におられますが、特に胎児超音波画像診断の分野において卓越した技術を持たれており、近隣からの診断依頼に対応されております。2022年は9月から牛嶋医師が産科病棟医長となりました。2013年から当院に勤務された高木健次郎教授が、2021年3月で定年退職されたため、2022年は桑田教授が周産期科母体胎児部門と産婦人科の双方の診療科長を台頭しています。2022年は新人シニアレジデ

ントとして大澤医師と木原医師、藤森医師、渡辺医師の4名が当院産婦人科にて研修を始められました。多数のシニアレジデントが、埼玉協同病院、丸山記念総合病院、北里大学メディカルセンター病院、済生会河口総合病院、越谷市立病院、練馬光ヶ丘病院、大宮レディースクリニック、名瀬徳洲会病院等に出向され研修されています。

（追記：2023年ではありませんが2024年は専攻医研修を終了したシニアレジデントとして、市川知佳医師（専門医）、清水綾乃医師が、新人シニアレジデントとして阿部準也医師、鈴木七海医師、谷口美佑紀医師、中村早貴医師、中本龍医師、成清恵医師、長谷川美奈医師が当院産婦人科プログラムで研修を始められました。）

当科の特徴として、まず、通院中の妊婦の7割以上がハイリスク妊娠症例であることが挙げられます。産科診療開始以来、内科疾患や外科疾患の合併症妊娠などハイリスクの多数の症例を取り扱って来ましたが、最近の傾向として、超音波画像診断に卓越している桑田教授を頼り、胎児心疾患等の胎児診断のための紹介症例、前置胎盤を含む胎盤位置異常の近隣の病院からの紹介症例が増えてきています。

2019年7月から南館4階にある手術室で予定帝王切開の施行が本格的に稼働し、中央手術部の手術室の負担を減らし病院全体としての手術待機症例を減少させることを目指しております。

2022年は産婦人科も他科と同様に、SARS Cov2感染によるCOVID-19症例への対応が必要でした。桑田教授は埼玉県において新型コロナウイルス感染妊婦が適切な

医療を受けられるようにするためのシステムとしての埼玉県産婦人科医会「COVID-19対応産科リエゾンシステム」の立ち上げとその運営において中心的な役割を務められました。さらに桑田教授はマスコミへの対応もされていました。新型コロナウイルス感染症関連の対応に関しては当院のみならず埼玉県の周産期医療全体に貢献するに至っております。

3. 実績・クリニカルインディケーター

1) 外来患者の内訳（当院電算課データ。

2023年1月～12月。）

2023年の外来患者数は計5,228名で、初診は400名でした。国内の分娩数が激減している状況ではあるものの、総外来患者数、初診患者数共に大きな変動は認められませんでした。各々の症例毎に個別の配慮が必要なハイリスク症例が多いのが当センターの特徴ですが、産科外来には助産師も常駐し、妊婦健診時の保健指導をはじめ、外来から分娩・産褥・育児まで継続してサポートできる体制を作っています。

2) 入院患者の内訳（当院電算課データ。

2023年1月～12月。）

入院患者延べ人数は7,131名（2022年7,253名）であり、平均在院日数は11.7日（2022年11.3）でした。入院患者数、平均在院日数ともに大きな変動は認められませんでした。

3) 分娩数の内訳（当院病棟データ。2023年1月～12月。）

産科分娩数は441例（2022年445例）であり経膈分娩224例（2022年215例）、帝王切

開分娩217例（2022年230例）でした。当科は分娩予約を行っているため、総分娩数は400例前後となっております。帝王切開分娩の割合は50%強と相変わらず高く、理由としては母体搬送を受け入れていることと、他科疾患の合併症妊娠を数多く受け入れていること、妊娠高血圧症候群などの妊娠合併症症例も数多く対応していることが帝王切開分娩症例増加に関わっていると考えております。

産科手術件数：232例（2022年253例）でした。帝王切開術217例（2022年230例）、頸管縫縮術4例（2022年5例）、子宮内容物除去術11例（2022年5例）が施行されました。なお2022年は帝王切開後に単純子宮全摘手術を行った症例はありませんでした。流産手術は6例（2022年35例）で2022年と比べると減少しております。2013年以降外来患者の完全予約制に伴い近隣の紹介医からの初診症例に関しては妊娠8週以降の児心拍確認症例に限定しているためと考えております。

月別分娩者数は以下の通りです。

2023年（令和5年）					
	自然経産	鉗子	吸引	帝王切開	合計
1月	16	3	5	17	41
2月	18	1	1	23	43
3月	14	0	8	14	36
4月	11	0	0	10	21
5月	12	3	2	21	38
6月	21	0	3	20	44
7月	17	0	0	19	36
8月	17	0	0	22	39
9月	9	4	1	16	30
10月	17	0	1	17	35

11月	13	0	3	20	36
12月	17	0	7	18	42
合計	182	11	31	217	441

多胎妊娠の分娩数は以下の通りです。2022年は総計27症例（2022年は総計19症例）でした。過去最高の取り扱い数でした。多胎は双胎までの対応とし、症例数は月間2～3例までとする制限を設けておりますが、近隣の医療機関の要望があれば、予定日の配分を検討しながら対応例の増数を行っています。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
多胎	1	4	0	1	3	3
7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
4	1	2	2	3	3	27

4. カンファレンスなど

・科長総回診……………毎週月曜日
 ・周産期カンファレンス（産科・小児科・小児外科医、助産師、看護師、臨床心理士）……………毎週水曜日
 すべての入院症例と、28週以降のすべての外来受診症例について、周産期母子医療センター産科部門医師全員で症例を検討し、方針を協議していますので、いつ頃どのような症例が分娩となりそうなのか、スタッフ全員が把握するように努めております。また週1回の周産期カンファレンスで、新生児部門医師との情報交換を緊密に行い、それ以外にも随時連絡を取り合い、連携を密にしております。情報は日々更新し、前方視的できめ細やかな周産期医療を行っています。

5. 研究、学会活動など

前述の如く総合病院という性質上2023年も多数の他科疾患合併症例に対応いたしました。希少症例についてはできるだけ学会での症例報告やケースレポート作成を行いました。

また「みぬま周産期セミナー」は2014年平成26年3月15日に第一回を開催したのちに1～2回の割合で当センターにて開催されています。今までは、周産期科に携わる各医師達によって一般の人、メディカルスタッフ、近隣や当センターの医師達に様々な医療の情報が提供されていました。

6. 2023年の活動目標の達成度

90%

新型コロナウイルス感染蔓延に伴い2020年に引き続き2021年も行動が大幅に制限されていましたが、次第に活動再開となりました。今後はこれまで以上に近隣の医療機関との連携をより深める必要があると考えています。

担当地域の医療従事者を対象とした情報提供・交換の場を設けたいと考えます。

7. 今後の活動目標

ハイリスク症例を中心に、NICUおよび他の診療科と協力して、個々の症例に適したオーダーメイド医療の実践を目指します。また地域の医療機関との病診連携・病病連携を密にし、地域周産期母子医療センターとしての役割を発揮すべく体制を整備します。同時に、卒前・卒後教育を重視し、最新の周産期管理の知識や技術を取り入れ、貴重な産婦人科医師を育成する努力をします。

(周産期科 新生児部門)

1. スタッフ

【新生児部門】

部門長（教授）	細野 茂春
医員（講師）	佐藤 洋明
医員（助教）	丸山 麻美
病院助教	中張 惇子

【小児科】

シニアレジデント	5名
----------	----

- ・小児科と共に診療を行っており、数ヶ月単位で小児科スタッフが入れ替わっている。産婦人科からの研修も受け入れた。

2. 診療科の特徴

認定医・専門医

小児科学会専門医	細野茂春、他8名
周産期新生児学会専門医	細野茂春、他2名
NCPRインストラクター	細野茂春、他4名

総病床数 21床

NICU（新生児集中治療室）9床

GCU（回復治療室）12床

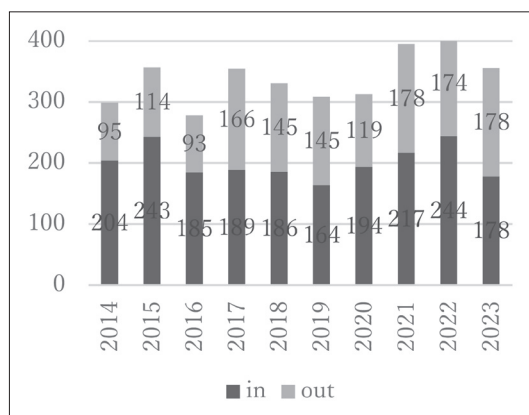
診療機器

人工呼吸器 6台（ハミングX 2台、Newport E360 3台、Babylog VN500 2台）
 経鼻的換気装置 7台（SiPAP 2台、Sindi 3台、Optiflow 2台）
 一酸化窒素吸入器 2台

入室基準は、出生28週以上、または出生体重1000g以上。（対象外；心臓血管外科疾患、脳神経外科疾患、低体温療法、血液透析）

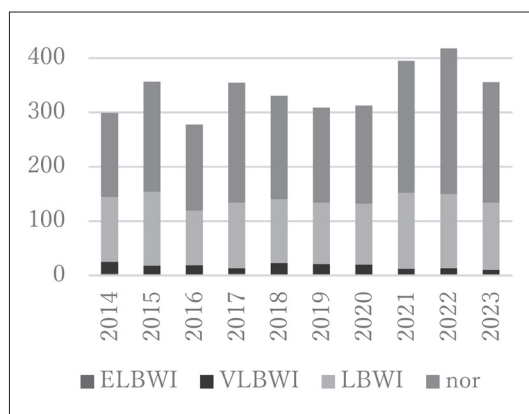
3. 実績・クリニカル・インディケーター

(ア) 総入院数

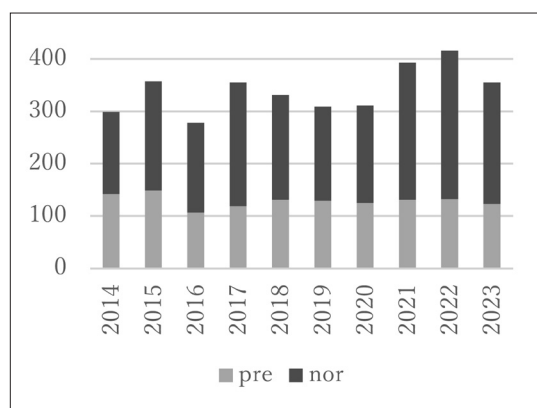


in, 院内出生児; out, 院外出生児。約半数が院内出生児。例年と変化を認めなかった。

(イ) 入院患児 体重別



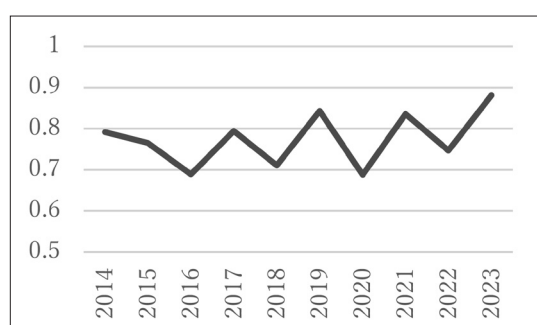
(ウ) 出生体重別 (ELBWI, <1kg; VLBWI, 1.0-1.5; LBWI, 1.5-2.5; nor, 2.5-)。



pre, <37w; nor, >36w。新規入院患児の半数以上が正出生体重児、正期産児である。

(エ) 診察依頼応需率

応需率 = 院外出生児入院数 / (院外入院依頼件数)。



例年7～8割を推移している。

(オ) 転帰

死亡退院1人。

4. カンファレンス・勉強会

・病棟回診・ベッドコントロール：毎日
スタッフ、公認心理師・薬剤師・臨床工
学士、MSWを交えて行った。

・周産期カンファレンス：月1回
新生児科、産科、小児外科、スタッフ、
助産師、臨床心理士、MSWを交えて行った。

・救急対応・蘇生トレーニング：年2回
蘇生技術や病棟内急変時トレーニング。
・周産期新生児学会新生児蘇生術講習会
公認講習会を地域の医療機関スタッフも
交え実施している。

5. 当科の業績

【原著】

1) Wyckoff MH, Greif R, Morley PT, Ng KC, Olasveengen TM, Singletary EM, Soar J, Cheng A, Drennan IR, Liley HG, Scholefield BR, Smyth MA, Welsford M, Zideman DA, Acworth J, Aickin R, Andersen LW, Atkins D, Berry DC, Bhanji F, Bierens J, Borra V, Böttiger BW, Bradley RN, Bray JE, Breckwoldt J, Callaway CW, Carlson JN, Cassan P, Castrén M, Chang WT, Charlton NP, Phil Chung S, Considine J, Costa-Nobre DT, Couper K, Couto TB, Dainty KN, Davis PG, de Almeida MF, de Caen AR, Deakin CD, Djärv T, Donnino MW, Douma MJ, Duff JP, Dunne CL, Eastwood K, El-Naggar W, Fabres JG, Fawke J, Finn J, Foglia EE, Folke F, Gilfoyle E, Goolsby CA, Granfeldt A, Guerguerian AM, Guinsburg R, Hirsch KG, Holmberg MJ, Hosono S, Hsieh MJ, Hsu CH, Ikeyama T, Isayama T, Johnson NJ, Kapadia VS, Kawakami MD, Kim HS, Kleinman M, Kloeck DA, Kudenchuk PJ, Lagina AT, Lauridsen KG, Lavonas EJ, Lee HC, Lin YJ, Lockey AS, Maconochie IK, Madar RJ, Malta Hansen C, Masterson S, Matsuyama T, McKinlay CJD, Meyran

D, Morgan P, Morrison LJ, Nadkarni V, Nakwa FL, Nation KJ, Nehme Z, Nemeth M, Neumar RW, Nicholson T, Nikolaou N, Nishiyama C, Norii T, Nuthall GA, O'Neill BJ, Gene Ong YK, Orkin AM, Paiva EF, Parr MJ, Patocka C, Pellegrino JL, Perkins GD, Perlman JM, Rabi Y, Reis AG, Reynolds JC, Ristagno J, Rodriguez-Nunez A, Roehr CC, Rüdiger M, Sakamoto T, Sandroni C, Sawyer T, Schexnayder TM, Schmölzer GM, Schnaubelt S, Semeraro F, Skrifvars MB, Smith CM, Sugiura T, JA Tijssen, Trevisanuto D, Van de Voorde P, Wang TL, Weiner GM, Wyllie JP, Yang CW, Yeung J, Nolan J, Berg KM; Collaborators: 2022 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations: Summary From the Basic Life Support; Advanced Life Support; Pediatric Life Support; Neonatal Life Support; Education, Implementation, and Teams; and First Aid Task Forces. *Pediatrics* 151:e2022060463, 2023

- 2) Katherine M Berg, Janet E Bray, Kee-Chong Ng, Helen G Liley, Robert Greif, Justin N Carlson, Peter T Morley, Ian R Drennan, Michael Smyth, Barnaby R Scholefield, Gary M Weiner, Adam Cheng, Therese Djärv, Cristian Abelairas-Gómez, Jason Acworth, Lars W Andersen, Dianne L Atkins, David

C Berry, Farhan Bhanji, Joost Bierens, Thomaz Bittencourt Couto, Vere Borra, Bernd W Böttiger, Richard N Bradley, Jan Breckwoldt, Pascal Cassan, Wei-Tien Chang, Nathan P Charlton, Sung Phil Chung, Julie Considine, Daniela T Costa-Nobre, Keith Couper, Katie N Dainty, Vihara Dassanayake, Peter G Davis, Jennifer A Dawson, Maria Fernanda de Almeida, Allan R De Caen, Charles D Deakin, Bridget Dicker, Matthew J Douma, Kathryn Eastwood, Walid El-Naggar, Jorge G Fabres, Joe Fawke, Nino Fijacko, Judith C Finn, Gustavo E Flores, Elizabeth E Foglia, Fredrik Folke, Elaine Gilfoyle, Craig A Goolsby, Asger Granfeldt, Anne-Marie Guerguerian, Ruth Guinsburg, Tetsuo Hatanaka, Karen G Hirsch, Mathias J Holmberg, Shigeharu Hosono, Ming-Ju Hsieh, Cindy H Hsu, Takanari Ikeyama, Tetsuya Isayama, Nicholas J Johnson, Vishal S Kapadia, Mandira Daripa Kawakami, Han-Suk Kim, Monica E Kleinman, David A Kloeck, Peter Kudenchuk, Amy Kule, Hiroshi Kurosawa, Anthony T Lagina, Kasper G Lauridsen, Eric J Lavonas, Henry C Lee, Yiqun Lin, Andrew S Lockey, Finlay Macneil, Ian K Maconochie, R John Madar, Carolina Malta Hansen, Siobhan Masterson, Tasuku Matsuyama, Christopher J D McKinlay, Daniel Meyran, Vix Monnelly, Vinay Nadkarni, Firdose L Nakwa, Kevin J Nation, Ziad

Nehme, Michael Nemeth, Robert W Neumar, Tonia Nicholson, Nikolaos Nikolaou, Chika Nishiyama, Tatsuya Norii, Gabrielle A Nuthall, Shinchiro Ohshimo, Theresa M Olasveengen, Yong-Kwang Gene Ong, Aaron M Orkin, Michael J Parr, Catherine Patocka, Gavin D Perkins, Jeffrey M Perlman, Yacov Rabi, James Raitt, Shalini Ramachandran, Viraraghavan V Ramaswamy, Tia T Raymond, Amelia G Reis, Joshua C Reynolds, Giuseppe Ristagno, Antonio Rodriguez-Nunez, Charles C Roeher, Mario Rüdiger, Tetsuya Sakamoto, Claudio Sandroni, Taylor L Sawyer, Steve M Schexnayder, Georg M Schmölzer, Sebastian Schnaubelt, Federico Semeraro, Eunice M Singletary, Markus B Skrifvars, Christopher M Smith, Jasmeet Soar, Willem Stassen, Takahiro Sugiura, Janice A Tijssen, Alexis A Topjian, Daniele Trevisanuto, Christian Vaillancourt, Myra H Wyckoff, Jonathan P Wyllie, Chih-Wei Yang, Joyce Yeung, Carolyn M Zelop, David A Zideman, Jerry P Nolan; Collaborators2023 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations: Summary From the Basic Life Support; Advanced Life Support; Pediatric Life Support; Neonatal Life Support; Education, Implementation, and

Teams; and First Aid Task Forces. *Circulation* 2023 Online ahead of print. PMID:37942682

- 3) Berg KM, Bray JE, Ng KC, Liley HG, Greif R, Carlson JN, Morley PT, Drennan IR, Smyth M, Scholefield BR, Weiner GM, Cheng A, Djärvi T, Abelairas-Gómez C, Acworth J, Andersen LW, Atkins DL, Berry DC, Bhanji F, Bierens J, Bittencourt Couto T, Borra V, Böttiger BW, Bradley RN, Breckwoldt J, Cassan P, Chang WT, Charlton NP, Chung SP, Considine J, Costa-Nobre DT, Couper K, Dainty KN, Dassanayake V, Davis PG, Dawson JA, de Almeida MF, De Caen AR, Deakin CD, Dicker B, Douma MJ, Eastwood K, El-Naggar W, Fabres JG, Fawke J, Fijacko N, Finn JC, Flores GE, Foglia EE, Folke F, Gilfoyle E, Goolsby CA, Granfeldt A, Guerguerian AM, Guinsburg R, Hatanaka T, Hirsch KG, Holmberg MJ, Hosono S, Hsieh MJ, Hsu CH, Ikeyama T, Isayama T, Johnson NJ, Kapadia VS, Kawakami MD, Kim HS, Kleinman ME, Kloeck DA, Kudenchuk P, Kule A, Kurosawa H, Lagina AT, Lauridsen KG, Lavonas EJ, Lee HC, Lin Y, Lockey AS, Macneil F, Maconochie IK, Madar RJ, Malta Hansen C, Masterson S, Matsuyama T, McKinlay CJD, Meyran D, Monnelly V, Nadkarni V, Nakwa FL, Nation KJ, Nehme Z, Nemeth M, Neumar RW, Nicholson T, Nikolaou N, Nishiyama C, Norii T, Nuthall GA, Ohshimo S,

- Olasveengen TM, Ong YG, Orkin AM, Parr MJ, Patocka C:2023 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations: Summary From the Basic Life Support; Advanced Life Support; Pediatric Life Support; Neonatal Life Support; Education, Implementation, and Teams; and First Aid Task Forces. *Circulation*.148 (24) :187-280, 2023
- 4) Seidler AL, Libesman S, Hunter KE, Barba A, Aberoumand M, Williams JG, Shrestha N, Aagerup J, Sotiropoulos JX, Montgomery AA, Gyte GML, Tarnow-Mordi OM, El-Naggar W, Carlo WA, Datta V, Lago V, Sundaram V, Manoj VC, Debray TPA, Sahoo T, Trongkamonthum T, Hooper SB, Dias S, Pratesi S, Badurdeen S, Hosono S, Belk SS, Shekhar S, Chamnanvanakij S, Arsan S, Knol R, Simes RJ, Riley RD, Pongmee P, Davis PG, Andersson O, Dipak NK, Nasef N, Allam NE, Mangla MK, Meyer MP, March M, Kluckow M, Goya M, Veciana MD, Manizheh MG, Robledo KP, Murphy KE, Wallace K, Fairchild KD, Josephsen JP, Merce JSr, Dorling JD, Kattwinkel J, Liu JQ, Nour I, Atia H, Liley HG, Rabe H, Al-Wassia HK, Carroli G, Polglase GP, Mohan GR, Dempsey EM, Okulu E, Blank DA, Chawla D, Ruangkit, Tanprasertkul C, Matallana CDP, Backes CH, Schwabberger B, Urlesberger B, Kc A, Pas ABT, Katheria AC, Thukral A, George AA, Webster AC, Kugelman A, Tan AC, Kumar A, Garg A, Duley L, Askie LM: Short, medium, and long deferral of umbilical cord clamping compared with umbilical cord milking and immediate clamping at preterm birth: a systematic review and network meta-analysis with individual participant data. *Lancet* 402 (10418):2223-2234, 2023
- 5) Seidler AL, Aberoumand M, Hunter KE, Barba A, Libesman S, Williams JG, Shrestha N, Aagerup J, Sotiropoulos JX, Montgomery AA, Gyte GML, Garg A, Kumar A, Tan AC, Kugelman A, Webster AC, George AA, Thukral A, Katheria AC, Pas ABT, Kc A, UrlesbergerB, Schwabberger B, Backes CH, Matallana CDP, Tanprasertkul C, Ruangkit C, Chawla D, Blank DA, Okulu E, Dempsey E, Mohan GR, Polglase GR, Carroli G, Al-Wassia GHK, Rabe H, Liley HG, Atia H, Nour I, Liu JQ, Kattwinkel J, Dorling JS, Mercer JS, Josephsen JB, Fairchild KD, Wallace K, Murphy KE, Robledo KP, Gharehbaghi MM, Veciana MD, Goya M, Kluckow M, March MI, Meyer MP, Mangla MK, Allam NE, Nasef N, Dipak NK, Andersson O, Davis PG, Pongmee P, Riley RD, Simes RJ, Knol R, Arsan S, Shekhar S, Belk SS, Hosono S, Badurdeen S, Pratesi S, Dias S, Hooper SB, Sahoo T, Debray TPA, Manoj VC, Sundaram V, Lago

V, Datta V, El-Naggar W, Carlo WA, Tarnow-Mordi WA, Duley L, Askie LN: Deferred cord clamping, cord milking, and immediate cord clamping at preterm birth: a systematic review and individual participant data meta-analysis. *Lancet* 402 (10418):2209-2222, 2023

- 6) Berg KM, Bray JE, Ng KC, Liley HG, Greif R, Carlson JN, Morley PT, Drennan IR, Smyth M, Scholefield BR, Weiner GM, Cheng A, Djärvi T, Abelairas-Gómez C, Acworth J, Andersen LW, Atkins DL, Berry DC, Bhanji F, Bierens J, Bittencourt Couto T, Borra V, Böttiger BW, Bradley RN, Breckwoldt J, Cassan P, Chang WT, Charlton NP, Chung SP, Considine J, Costa-Nobre DT, Couper K, Dainty KN, Dassanayake V, Davis PG, Dawson JA, de Almeida MF, De Caen AR, Deakin CD, Dicker B, Douma MJ, Eastwood K, El-Naggar W, Fabres JG, Fawke J, Fijacko N, Finn JC, Flores GE, Foglia EE, Folke F, Gilfoyle E, Goolsby CA, Granfeldt A, Guerguerian AM, Guinsburg R, Hatanaka T, Hirsch KG, Holmberg MJ, Hosono S, Hsieh MJ, Hsu CH, Ikeyama T, Isayama T, Johnson NJ, Kapadia VS, Kawakami MD, Kim HS, Kleinman ME, Kloeck DA, Kudenchuk P, Kule A, Kurosawa H, Lagina AT, Lauridsen KG, Lavonas EJ, Lee HC, Lin Y, Lockey AS, Macneil F, Maconochie IK, Madar RJ, Malta Hansen C, Masterson S, Matsuyama T,

McKinlay CJD, Meyran D, Monnelly V, Nadkarni V, Nakwa FL, Nation KJ, Nehme Z, Nemeth M, Neumar RW, Nicholson T, Nikolaou N, Nishiyama C, Norii T, Nuthall GA, Ohshimo S, Olasveengen TM, Ong YG, Orkin AM, Parr MJ, Patocka C: 2023 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations: Summary From the Basic Life Support; Advanced Life Support; Pediatric Life Support; Neonatal Life Support; Education, Implementation, and Teams; and First Aid Task Forces. *Resuscitation* 195:109992, 2024

【学会発表】

- 1) 中張惇子、細野茂春、五味玲、草川功、田中一郎：頭のかたち測定アプリケーションの精度検定. 第126回日本小児科学会学術集会 2023年4月14日-16日 東京
- 2) 杉浦崇浩、細野茂春、草川功、諫山哲哉：「どうする どうなるJRC蘇生ガイドライン2025（2）」NCPR どうする どうなるJRC蘇生ガイドライン2025. 第15回日本蘇生科学シンポジウム 2023年7月28日 東京
- 3) 森田直人、関弘翔、宮野咲紀、辻泰弘、佐藤洋明、細野裕行：新生児モニター心電図の欠損値補完に関する検討. 第34回日本大学薬学部学術講演会 2023年10月28日 千葉
- 4) 中張惇子、丸山麻美、佐藤洋明、

- 細野茂春：ヘルメット矯正療法を行った児の運動発達及び頭囲の検討. **Motor development and head circumferences in children underwent cranial remolding helmet therapy.** 第67回日本新生児成育医学会・学術集会 2023年11月2-4日 神奈川
- 5) 中張惇子、丸山麻美、佐藤洋明、細野茂春：合同シンポジウム「位置的頭蓋変形から見てきた頭蓋健診の重要性」頭のかたち外来を開設して～看護師さん、事務さんにありがとう～. **Establishment of outpatient clinic for the baby's head shape. Thanks for nurses and clerks.** 第67回日本新生児成育医学会・学術集会 2023年11月2-4日 神奈川
- 6) 丸山麻美：学術集会企画3：訪問看護師さんお願いします！～退院支援の最終手段 訪問看護指示書を書く～. 第32回日本新生児看護学会学術集会 2023年11月3-4日 神奈川
- 7) 細野茂春：飛躍のチャンスは論文から. 第57回日本新生児生育医学会・学術集会 2023年11月2～4日 横浜市
- 8) 江藤宏美、本多由依、神徳備子、細野茂春：「位置的頭蓋変形症から見てきた頭蓋健診の重要性」周産期からの予防（助産師の立場から）. 第67回日本新生児成育医学会 2023年11月2-4日 横浜
- 9) 林夢夏、関弘翔、宮野咲紀、佐藤洋明、細野裕行：新生児心電図のクラスタリング及びその解釈. 令和5年（第67回）日本大学理工学部学術講演会 2023年11月30日 東京
- 10) 森田直人、関弘翔、宮野咲紀、青山隆彦、辻泰弘、佐藤洋明、細野裕行：拡散モデルによる時系列医療データの欠損値補完. 第44回日本臨床薬理学会学術総会 2023年12月14-16日 神戸
- 11) 細野茂春：新生児医療における輸血医療の変遷. 令和5年度赤十字血液シンポジウム 関東甲信越 2024年1月27日 東京
- 【その他】
- 1) 細野茂春：その説明で伝わりますか？－シナジス投与の際のつたわるICの技術－. **Pediatric TV symposium** 2023年4月19日 Zoom Webinar
- 2) 細野茂春：企画セッション3 ちょっとまって、その投稿は大丈夫？ 知らなかったでは済まされない研究倫理の問題 査読の心得. 第126回日本小児科学会学術集会 2023年4月14日-16日 東京
- 3) 細野茂春：モーニング 日本語の作文技術 読み手に伝わる日本語論文作成のために. 第126回日本小児科学会学術集会 2023年4月14日-16日 東京
- 4) 細野茂春：教育セミナー 位置的頭蓋変形予防の啓発と頭のかたちに悩む親への対応. 第126回日本小児科学会学術集会 2023年4月14日-16日 東京
- 5) 細野茂春：初診時の対応とヘルメット矯正療法説明のポイント. 第2回位置的頭蓋変形に対するヘルメット適正治療研修会 2023年4月8日 東京
- 6) 中張惇子：ヘルメット初装着の親への説明. ヘルメット調整のポイント. 第2回位置的頭蓋変形に対するヘルメッ

ト適正治療研修会 2023年4月8日
東京

年3月26日 埼玉

- 7) 細野茂春：パリーブズマブ投与が児を守ることをご両親に理解いただくには－啓発活動に必要な知識－. 群馬県パリーブズマブ適正使用を考える会 2023年4月6日 前橋
- 8) 細野茂春：Late preterm児を持つ親にパリーブズマブ投与の重要性を認識していただくためのICのポイント. North Osaka Alliance of Humanity perinatal care project 学術講演会 2023年6月24日 高槻市
- 9) 細野茂春：RSV感染症による重症下気道感染発症抑制のためのシナジス投与の最適化を考える. Save the Small babies Symposium 2023 2023年8月23日 Zoom Webinar
- 10) 細野茂春：ピークを越えたRSV流行時期のパリーブズマブ投与を考える. RSV Conference in Chiba 2023 2023年10月10日 Zoom Webinar
- 11) 細野茂春：RSV感染症の重症化リスク～児をRSVから守る重要性～. Pediatric TV Symposium 2023年11月16日 Zoom Webinar
- 12) 細野茂春：深掘り 病態生理から考える新生児蘇生法. 第13回青森周産期救急セミナー 2023年11月24日 弘前市
- 13) 中張惇子：初装着時の説明. 第3回位置的頭蓋変形に対するヘルメット適正治療研修会 2023年12月17日 東京
- 14) 丸山麻美：RSV流行開始に間に合わせたい－パリーブズマブ投与の準備期間短縮のために当院がはじめたこと－. アストラゼネカTVシンポジウム 2024

【著者・総説】

- 1) 細野茂春：もやもや解消！血液ガス・酸塩基平衡をおさらいしよう！ よくわかる新生児の血液ガス. 細野茂春 メディカ出版, 2023, 12-16
- 2) 細野茂春：ガス交換の仕組みをおさらいしよう！ よくわかる新生児の血液ガス. 細野茂春 メディカ出版, 2023, 34-58
- 3) 細野茂春：胎児－胎盤系のガス交換の特殊性を理解しよう！ よくわかる新生児の血液ガス. 細野茂春 メディカ出版, 2023, 59-67
- 4) 細野茂春：臍帯動脈血ガス測定の意義を知ろう！ よくわかる新生児の血液ガス. 細野茂春 メディカ出版, 2023, 102-109
- 5) 細野茂春：読み方がサクサク身につく 演習ドリル. 細野茂春 メディカ出版, 2023, 124-186
- 6) 細野茂春：新生児蘇生でPEEPをかけて人工呼吸を行う場合 Tピース蘇生器を使う. 周産期医学 53 東京医学社, 2023, 8-11
- 7) 細野茂春：資格を知る 新生児蘇生法インストラクターを知る. 小児看護 46 へるす出版, 2023, 42-47
- 8) 細野茂春：【論文の書き方・査読の仕方】医学論文の査読の心得. 日本新生児成育医学会雑誌 35巻2号 日本新生児成育医学会, 2023, 191-194
- 9) 細野茂春：病的新生児の評価 不適切な新生児蘇生. 周産期医学 53巻7号 東京医学社, 2023, 1034-1038

- 10) 細野茂春：医療メディエーター．周産期医学 53巻7号 東京医学社，2023, 1033
- 11) 細野茂春：子どもの検査値の判断に迷ったら 6章 血液生化学検査 血液ガス．小児科 64（13）金原出版，2023, 1497-1501
- 12) 細野茂春：小児科医が行う“乳児の頭のかたち外来”の意義と頭蓋変形の予防と治療．日本母乳哺育学会雑誌 17（2）2023, 149-157
- 13) 細野茂春：飛躍のチャンスは論文から．日本新生児成育医学会雑誌 35（3）2023, 405-405
- 14) 丸山麻美：周産期診療のための病態生理「新生児において急速な輸液が危険であるといわれているがその理由は何か」．周産期医学 53巻増刊号 東京医学社，2023, 378-380

6. 事業計画

- ・地域医療連携を強化し、積極的な新生児搬送入院、特に新生児外科疾患合併患児の受け入れを進める。
- ・限られたNICU・GCU病床を有効に活用するため、当院小児科や近隣の周産期施設・小児科と連携をとる。
- ・COVID-19流行が依然認められ、感染防御の教育と実践、対象症例受け入れの整備を続ける。
- ・日本周産期新生児学会新生児専門医の育成を進めていく。
- ・当科は日本周産期新生児学会の新生児蘇生法トレーニングサイトである。近隣周産期医療施設と協力し、埼玉県の周産期医療の技術向上を進めていく。